

## 平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）被災地視察について

静岡県ボランティア協会は、静岡県の支援先となる広島県呉市にて、被災された方々に少しでもホッとした時間を過ごしていただけるようにと、避難所等での「足湯活動とサロン活動」を行っています。事務局では 8 月 24 日（金）～26 日（日）の日程で第 4 次隊に随行する機会をいただきました。現地では、被災された方々から直接お話を聞くことができ、また土砂災害の被災現場や泥まみれになった家屋などを目の当たりにして改めて被害の甚大さを実感しました。以下、視察の様子をお伝えいたします。

### 1. 活動内容

#### (1) 足湯サロン活動

湯に足をつけてもらいながら、向き合っ手を取り、さすり、向き合っ被災者の声を聴く活動です。阪神・淡路大震災から始められており、東洋医学に基づく身体的な効能だけでなく、リラックスした環境を作って、被災された方々の気持ちに寄り添うことで、隠れたニーズや心の悩みなど本音「つぶやき」を聞き出すことが重要な目的です。「つぶやき」はそのまます録し、反省会「ふりかえり」で現地の社会福祉協議会の職員も交え情報共有し、個別の問題解決に活用しています。



#### (2) 参加者

県ボランティア協会事務局 1 名、ボランティア 7 名、同行者 3 名（県ボランティア協会鳥羽事務局長、静銀総合サービス石渡社長、「小さな親切」運動静岡県本部久松事務局長）。メンバーは大学准教授、会社員、小学校教員、高校生と年齢職業も様々。現地で民生委員が各 1 名、呉高等専門学校生 1 名が合流。



## 2. 現地の状況

### (1) 天応地区

- ・人的被害は、死者 11 名、行方不明者 1 名（8 月 23 日現在）。
- ・上流の谷から土石流が発生し、建物が倒壊。下流域の低地は 1 階部分まで水没しました。上流域の約半分は重機が入れず、大きな瓦礫が残っており、未だにボランティアも入れない状況です。地元の方は「海も近く昔から大潮の被害はあったが、土石流の被害は初めての経験」と話していました。
- ・天応まちづくりセンターには 50 名近くの避難者が生活しています。仮設住宅が完成し 9 月から入居が始まる予定です。



### (2) 安浦地区

- ・人的被害は、死者 4 名（8 月 23 日現在）。
- ・安浦地区は 4 地区に分かれており、山側の中畑地区では土砂崩れで死者がでました。安浦駅周辺は土地が低く、多くの家屋が水没しました。被災された方は、「2 階で生活し 3 日間家から出られなかった」と話していました。
- ・安浦まちづくりセンターには 25 名の避難者が生活しています。仮設住宅 40 戸が完成しましたが、地域が広く自宅から離れてしまうなどの理由から、入居希望者は少ない様子です。





### (3) 吉浦地区

- ・人的被害は、死者 3 名（8 月 23 日現在）。
- ・現場は砂防ダムから流れ出した土石流が家屋を押し流し、集落を川のように土石流が流れました。
- ・倒壊した家屋や道路の瓦礫は概ね撤去されていましたが、発端となった砂防ダムの周辺には巨石や巨木が残っており、真横に住み運よく難を逃れた住民は、「次に強い雨が降ったら怖い」と話していました。



## 3. 全体を通じての感想

### (1) ボランティア活動について

- ・足湯サロンでは、ボランティア、民生委員の温かく心のこもった対応で「ありがとう」「気持ちよかった」と感謝の声が聞こえました。一方で、笑顔が無言でつぶやきのない方や、将来への不安を訴える方などもあったようで被災の受け止め方は人それぞれでした。
- ・「ふりかえり」で「つぶやき」を呉社会福祉協議会の担当者と情報共有することで、個別の対応に活かされています。
- ・当日の呉市全体のボランティア受付人数は 733 名（内天応 249 名、安浦 288 名）。主に家財の持ち出しや土砂の搬出を 10 名単位のチームで指示された家屋に赴き作業を行っています。被災から間もなく 2 か月間が経過しようとしていますが、まだ作業の必要な地域は残っているとのことで、被害の大きさと復興の難しさを感じました。猛暑の中でスコップとバケツを手に被災現場に歩いて向かうボランティアの皆さんの姿には感動を覚えました。
- ・初めての被災地に入って、ボランティア活動は地味な仕事で、一人のできる仕事は限られています。個々のひた向きの活動が集まり継続することで大きな流れを作っているのだと感じました。

### (2) 視察全体の感想

- ・被災場所を何か所か視察しましたが、決して特別危険な場所という印象はありませんでした。海に近く山を背負っている地域は静岡県でもよく見る景色で、どこにでも起こり得る災害であると感じました。
- ・土石流の被害は、土砂の流れ方次第で全く被災しない地域もあり、運不運で生死に分ける残酷な災害と感じました。もはや、この手の災害は逃げる以外に身を守る手段はないのではと思いました。

- ・被災された方々から直接お話を聞きました。当然のことですが、非常に生々しく臨場感があり、メディアでは取り上げられない災害のリアルな怖さを感じることができました。
- ・呉市だけでもこれだけの被害（死者 24 名、行方不明 1 名）であり、今回の豪雨による西日本全体の被害の甚大さを改めて痛感しました。
- ・仮設住宅も完成し、来月からは鉄道も開通するそうですが、自宅が倒壊したり、水につかって住めなくなった被災された方々にとっては、まだまだ生活再建や復興の目途は立っていません。今後も状況に応じて形を変えたきめ細かい支援活動の継続が必要だと思います。